

# 大病乗り越え 充実の日々

## 大曲農高・関口さん 今春卒業

白血病を乗り越えて、大曲農業高校で生徒会長に相当する農業クラブ会長を務めた仙台市出身の関口宗浩さんがこの春、同校を卒業する。中学時代に大仙市へ移住し、高校では野菜部部長も務めて、研究発表などで数々の賞を受賞。充実した3年間を送った。

関口さんは小学6年で白血 花子さんと同じ病気なんだ病と分かり、抗がん剤治療を な、と思ったことを覚えてい受けた。「小学生のころは水 る」。中学1年まで約2年間、泳に打ち込んでいた。池江璃 ほとんどの時間を病院で過



研究発表などで数々の賞を受賞し、充実した高校生活を送った関口さん

## 受賞多数「大学でも楽しむ」

当初は抗がん剤が体に合わず、食事も喉を通らなかつた。入院生活に新型コロナウイルスス禍も重なり、家族との面会も制限された。

「今いる場所のでいかに楽しむかが大切だ」。同じ境遇の子どもたちと遊び、医師や看護師ら病院スタッフの大人たちと触れ合いながら治療のつらさを紛らわせる中で、関口さんは成長し、コミュニケーション力を高めていった。

中学3年になると体力はほぼ回復。このころ、両親が手打ちそば店を開業するため、家族で大仙市へ移住した。

大曲農高へ進み、野菜栽培を研究し実践する野菜部に入部。すると「やりたいことをやらせてくれる環境が自分には抜群に合った」。

部活動や授業を通じて、一つのケースの中でレタスとカブトムシの幼虫を同時に育てる教材を開発したり、耕作放棄地で落花生を栽培したりした。その研究成果を発表すると、団体や個人で「地方創生☆政策アイデアコンテスト」

東北経済産業局長賞、「みどり戦略学生チャレンジ」東北ブロック大会高校の部グランプリ、毎日農業記録賞高校生部門優秀賞などを次々に受賞した。

1年秋に周囲から推されて農業クラブの副会長となり、2年秋には会長就任。全校生徒の代表として、学校行事の準備と運営、県内外の農業高校との交流活動で多忙な日々を送った。

「高校生活3年間でやり残したことはない。やり尽くした。同級生や先輩たちともいつなりをつくることのできた」

卒業後は県立大生物資源科学部アグリビジネス学科へ進む。「病気を経験して、与えられた環境でやりたいことを見つけて、楽しむことの大切さを知った。大学に進んだら、また新たな環境で楽しいことを見つけて打ち込みたい。いま病気で苦しむ人たちは、ネガティブにならず、何か楽しみを見つけてほしい」と語った。

(佐藤拓)